

上郡町のケバエ類

大貝秀雄¹⁾

ケバエ類（ケバエ科 Bibionidae, トゲナシケバエ科 Pleciidae とヒゲナガケバエ科 Hesperinidae, かつてはそれぞれケバエ科の亜科とされていた）は形態や色彩の妙味に欠け、一般に採集の対象となることの少ない昆虫であろう。ケバエ類はキノコバエ類などのように成虫の体は軟弱で、おおむね不活発な昆虫であり、多くは単発的に採集されるが、時には草地に多数の雌雄が群れていたり、雄が群飛する場合もある。一部の種は花に集まり、また走光性を示す種もある。雄の複眼が巨大化する点はケバエ類の顕著な特徴の一つであろう。国内からはケバエ科として 2 属 26 種、トゲナシケバエ科が 2 属 8 種、ヒゲナガケバエ科 1 属 2 種の合計 36 種が記録され（中村ほか 2014）ている。

日本産ケバエ類を系統的に調べた Hardy と Takahashi (1960) は、当時篠山町にあった兵庫県立兵庫農科大学（その後移転し、現神戸大学農学部）の収蔵標本を主要な研究材料の一つとしたため、彼らの命名したケバエ類のうち 10 種（うち、ホロタイプ 7 種）は兵庫県を基産地としたものであった。またニセアシブトケバエ *Bibio pseudoclavipes* Okada もタイプ標本の採集地は Tajima, Honshu なので兵庫県から最初に記載された種である。このようにケバエ類研究において兵庫県産の標本がはたしてきた役割は大きかったにもかかわらず、大貝（2018）などに断片的に見られる例はあっても、こ

れまで兵庫県のケバエ類を包括的に扱った報告は見当らない。

筆者は上郡町産ケバエ類を調査し、2 科 4 属 13 種と、ケバエ属 *Bibio* の 2 不明種を確認したので、以下に報告する。あわせて、名称がケバエ類に似たニセケバエ科の 1 種も記録しておく。

上郡町のケバエ類

ケバエ科 Bibionidae

1. トゲナガアシブトケバエ *Bibio adjanctus* Hardy and Takahashi, 1960 (図 1)

高田台；1 ♂, 17.VI.2006, 1 ♂, 11.VI.2012. 上郡 鈴の宮公園；2 ♂, 30.V.2021.

やや小型の種で、体は黒く肢は黄褐色ないし黒褐色。黒色の長立毛におおわれる。北海道と本州の記録がある。高田台の 2 例は夜間、屋内の蛍光灯に誘引されたもので、本種は走光性を有すると考えられる。

2. チビアシボソケバエ *Bibio amputonervis* Hardy and Takahashi, 1960 (図 2)

上郡 鈴の宮公園；2 ♂, 21.IV.2020. 旭日；1 ♂, 10.IV.2021, 1 ♂, 8.V.2021, 1 ♂, 17.IV.2023, 八保丙；1 ♂, 18.IV.2020.



図 1：トゲナガアシブトケバエ♂.



図 2：チビアシボソケバエ♂.

¹⁾ Hideo OGAI 兵庫県上郡町

体は黒く肢は黄褐色。淡黄褐色（一部は黒色）の長立毛におおわれる小型種。本州, 四国, 九州から知られる。

3. キスネアシボソケバエ *Bibio aneuretus* Hardy and Takahashi, 1960 (図 3)

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 15.IV.2020, 1 ♀, 3.IV.2023, 1 ♀, 10.IV.2024. 八保丙; 1 ♀, 11.IV.2024. 金出地; 1 ♀, 18.IV.2021.

小型種で体は黒色, 雌の肢はほぼ全体が濃黄色で, 腿節末端と脛節両端は狭く黒褐色を呈する。雌は前腿節の先方 2/3 の腹面に黒色の鋭い刺を散生し, 体は淡黄褐色の長毛におおわれるが胸部の毛はやや短い。北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。

4. ウスイロアシブトケバエ *Bibio flavihalter* Hardy and Takahashi, 1960 (図 4)

高田台; 1 ♀, 12.XI.2012. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♂, 16.XI.2019.

体はやや透明感のある黒色の中型種で, 雌の胸部は橙黄色である。全体的に淡色の長毛でおおわれ, 光沢がとばしい。肢は両性で橙黄色, 後肢の第一ふ節は顕著に肥大する。これらの全体的な印象が和名の由来になったと思われる。典型的な晩秋のケバエである。本州, 九州と極東ロシアに分布する。

5. クロアシボソケバエ *Bibio holomaurus* Hardy and Takahashi, 1960 (図 5)

与井; 1 ♂, 14.IV.2020. 八保丙; 1 ♂, 26.IV.2024.

雄は脛節の距や爪の褥板と爪間板が淡色となり, 爪が赤褐色であるのをのぞき, 漆黒色で, 体は黒色の長立毛におおわれる。雌は胸部が部分的に黄色く, 肢が赤褐色となるほかは黒色であるとされるが筆者は未見。本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する。

6. メスアカケバエ *Bibio japonica* Motschulsky, 1866 (図 6)

高田台; 1 ♀, 29.IV.2017. 西野山; 1 ♀, 30.IV.2010. 与井新; 4 ♂ 4 ♀, 13.IV.2002.

北海道, 本州, 九州, 奄美諸島, 沖縄諸島から知られ, 国外でもロシア南東部, 朝鮮半島, 中国から記録される広域分布種。

ケバエ類の多くの種は頭部の形状や体色などに性差が顕著であるが, 本種の雄は真黒なのにに対し雌は全身が橙色で肢は黒い。また後述のハグロケバエに次ぐ大型の目立つ種であるが, 筆者はかつて鹿児島県の与論島で翅長 7.5mm と著しく小型の♀を得たことがある (大貝 2015)。

吉田と八木 (2012) は兵庫県内で記録のある注目す

べき種として本種をあげているが, 上郡町では稀な種ではない。与井新での記録のケースでは, 路傍の小規模なやや陰湿な植物群落に 10 頭以上の雌雄が群れていたと記憶している。

7. メスアカアシボソケバエ *Bibio simulans* Hardy and Takahashi, 1960 (図 7a)

上郡 鈴の宮公園; 2 ♀, 21.IV.2020. 旭日; 1 ♂, 21.IV.2020.

原記載によると, 雄はクロアシボソケバエに似て体は黒く, 肢にも黒色部が多く, 全身が黒色の長立毛でおおわれる。雌は頭部と腹部が黒く, 肢では脛節と跗節が濃色になるほかは黄褐色とされる。

上郡産の雄標本の肢は基節と転節が黒いほかは一様に黄褐色で原記載とやや異なるが, 生殖節 (腹部第 9 背板) の特異な形状 (図 7b) から本種と同定した。雌はオーマンケバエ *Bibio omani* Hardy and Takahashi の雌と酷似し腿節の微妙な色調の差異でのみ区別可能とされるため, 誤同定の可能性が残る。

8. ニセアシブトケバエ *Bibio pseudoclavipes* Okada, 1938 (図 8)

高田台; 2 ♂, 19.III.2005, 1 ♂, 27.III.2005.

体は黒く, 肢は橙褐色の中型種で, 全身に黄白色の長毛を密生する。後肢の第一跗節は肥大する。本州と九州のほか, 韓国にも分布する。

上郡のケバエ類では, 春最も早く出現する種で, 標本は全例, 家屋の外壁に静止していたものである。

9. ハグロケバエ *Bibio tenebrosus* Coquillett, 1898 (図 9)

高田台; 1 ♂ 1 ♀, 29.IV.2004, 1 ♂, 3.V.2005, 1 ♂, 2.V.2007, 1 ♂, 26.IV.2015, 1 ♂, 28.IV.2015, 1 ♂, 29.IV.2015. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♂, 15.IV.2024.

日本産ケバエ類では最も大型で強壮な種で, 目につきやすい普通種である。雌雄とも体と肢は黒く, 毛は灰褐色で雌の毛は短い。国内では本州以南, 国外では韓国, 中国, ミャンマー, ネパール, インドに分布する南方系の広域種。

鈴の宮公園では尾根筋の四阿 (あずまや) がある付近で, ひらけた地面の上空 3 ~ 4m を, キムネクマバチ *Xylocopa appendiculata circumvolans* 雄のように, 飛び回っている複数の本種雄を観察した。占有行動であろうと推測される。

10. *Bibio* sp. 1 (図 10a)

上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 15.IV.2020.

体や肢の形状と色彩は一見クロアシボソケバエに類似するが, 翅の M2, M3+4 脈がほぼ翅縁に達する点などで異なる。前腿節の腹面内側先方にはキスネアシボソ

ケバエ雌と類似の短刺群があるが、刺はより細く長く、前腿節の前半に限られて生ずる（図 10b）。またキスネアシボソケバエ雌より大型で、肢の色は明らかに濃い。

以下に本種雌の上述以外の特徴を簡単に述べる。前脛節端の内刺は外刺よりやや短い。翅は淡い褐色をおび、翅脈は膜部よりわずかに濃色。r-m 横脈と径分脈の基部はほぼ等長。頭・胸・腹部は黒色。肢の基節・転節は黒く、腿節と前・中脛節は黒褐色で部分的に黄褐色。後脛節と跗節は黄褐色で、各節の末端部は黒褐色。

11. *Bibio* sp. 2 (図 11a)

高田台 古墳公園；2 ♀, 6.VI.2021. 野桑；5 ♀, 5.VI.2024.

前脛節の内側の短刺が外側のものより明らかに短い（図 11b）点を除けば、*Bibio singularis* Hardy and Takahashi, 1960 雌の原記載とよく一致する黒色中形の不明種で、翅は全面が強けむる。上郡町で 6 月上旬に採集しており、クリの花に集まる。採集した標本には、多数の花粉が付着していることから、花粉食の可能性はある。*singularis* の標本が手元になく詳細な検討はできないが、産地として北海道のみが知られる *singularis* に対して、本種は地理的に隔離された代替種にあたるのかもしれない。

以下に本種雌の上述以外の特徴を簡単に述べる。褐色の腹部腹板と脛節の距をのぞき全身が光沢ある黒色で、短い伏し毛をよそおう。前脛節の内側の距は外側のものの 1/3 の長さ（*singularis* では 2/3）。翅は全面が強くもるが前縁側ほど濃色である。M 脈基部から M1 とそれより前方の脈は黒褐色で、後方の脈は膜部よりわずかに濃色。r-m 横脈と径分脈の基部はほぼ等長で、M2 はわずかに、M3+4 は明らかに翅縁に届かない。

12. クチナガトゲケバエ *Dilophus fulviventris* Hardy and Takahashi, 1960 (図 12a)

金出地；1 ♀, 24.X.2023.

Dilophus はいずれも小型のケバエで、前胸背に顕著な突起列をもち、前脛節の腹面には複数の横列をなす突起列をもつ。また翅の Rs 脈は r-m 横脈より短いことで前属 *Bibio* から区別される。

本種は口吻が既知の日本産同属他種より顕著に長く、雌では胸部・腹部ならびにすべての基節と腿節が橙黄色を呈し他は黒いことなどで他種から区別できる。体の柔毛は淡色で短い。上郡産の標本は、前脛節中央部突起列の配列（図 12b）が原記載の図と一致しないが、この突起列は本種の雄において多様性があるとされている（Hardy and Takahashi, 1960）ので、上郡産標本が本種であることを否定する根拠にはならないと考える。

タイプ標本は北海道のクッチャロ湖と足寄別および愛媛県の面河溪で、5 月上旬から 6 月上旬に採集されて

いる。これを踏襲して日本昆虫目録では本種の分布を北海道と四国のみとしているが、本州でも既に東京都本土部での記録がある。しかし、上郡産標本の採集日は 10 月下旬であり、タイプ標本の採集時期とは大きく異なっている。上郡の標本は、本種の第二化にあたるのか、それとも酷似した別種なのであろうか。今後の検討が必要である。

トゲナシケバエ科 Pleciidae

13. ヒメセアカケバエ *Penthetria japonica* Wiedemann, 1830 (図 13)

高田台；1 ♀, 29.IV.2004, 1 ♀, 28.IV.2008, 1 ♀, 29.IV.2008, 1 ♀, 23.IX.2009, 1 ♂, 1.V.2010, 2 ♀, 2.V.2010, 1 ♂, 3.V.2010, 3 ♀, 4.V.2010, 1 ♀, 5.V.2010, 1 ♀, 26.IV.2015, 1 ♀, 29.IV.2015.

トゲナシケバエ科は翅の R2+3 と R4+5 脈が分岐することなどでケバエ科と区別される。*Penthetria* では R2+3 が長く R4+5 と平行に走る。

広範に鮮紅色を呈する中胸楯板をのぞき黒色の大形種で、体は灰褐色の微毛におおわれ、黒い短刺毛を有する。北海道、本州、四国、九州、中国、台湾、インド北部に分布する。

上郡町では 4、5 月と 9 月の記録がある。Hardy and Takahashi (1960) も 4、5、9、10 月の標本を記録しているので、春季と秋季の二化性のケバエであると思われる。

本種は 1826 年にライデン博物館に送られたというシーボルト採集の標本（Ueda et al, 2000）に基づき記載されたものかと思われる。

14. ヒメセグロケバエ *Penthetria velutina* Loew, 1858 (図 14)

与井；1 ♂, 6.VI.2019.

全身黒ないし黒褐色の小型種で、脛節の端距も黒い。体の被毛は前種と同様。北海道、本州、四国、九州に分布する。

15. クロトゲナシケバエ *Plecia adjastola* Hardy and Takahashi, 1960 (図 15)

高田台；1 ♂, 16.IV.2015, 1 ♀, 17.IV.2015, 1 ♂, 22.IV.2015, 1 ♂, 29.IV.2015, 1 ♂, 30.IV.2017, 1 ♂, 2.V.2017, 1 ♀, 22.IV.2018, 1 ♂, 23.IV.2018.

Plecia では R2+3 が短く、R4+5 から離れて C 脈に終わる。

雌雄とも全身黒色の中型種で、体の被毛は前属と同様。北海道、本州、九州に分布し、近畿地方でも兵庫（Paratype）のほか、京都、奈良、和歌山から記録されている（春沢 2012）。

ニセケバエ科 Scatopsidae

16. クロツヤニセケバエ *Scatopse notata* (Linnaeus, 1758)

(図 16)

高 田 台; 1 ♂, 21.III.2004, 1 ♂, 30.III.2007, 2 ♂, 12.IV.2008.

標本はいずれもユキヤナギの花に飛来したものである.

ニセケバエ科はC脈とR脈のみが強く黒褐色を呈する小型の昆虫である. ヨーロッパでは非常に多数の属種が知られているのに対し, 日本で記録されたのは4属5種にすぎず, 国内にはまだまだ多数の未記録・未記載種があるものと思われる. 上郡町でもクロツヤニセケバエ以外に属未詳の微小な不明種を複数得ている.

Scatopse 属は翅のR4+5脈が長く, M脈の分岐の先に明瞭な小枝があることなどで他属から明らかに区別される. 上郡産の標本はBeukの検索表にもとづき本種と同定したが, ヨーロッパの標本と比較したわけではない



図3: キスネアシボソケバエ♀.



図4: ウスイロアシトケバエ 左♂, 右♀.



図5: クロアシボソケバエ♂.



図6: メスアカケバエ 左♂, 右♀.



図7: メスアカアシボソケバエ a; 左♂, 右♀, b: 腹部第9背板 (♂).



図8: ニセアシトケバエ♂.



図9: ハグロケバエ 左♂, 右♀.

ので、酷似した別種の可能性はあり得る。

なお、各種図鑑類にはナガサキニセケバエ *Coboldia fuscipes* (Meigen, 1830) という種が掲載されていることが多いが、学研生物図鑑 III にナガサキニセケバエ *Scatopse* sp. として掲載されている標本の写真は R4+5 脈の特徴からクロツヤニセケバエの誤同定ではないかと思われる。



図 10 : *Bibio* sp. 1 a; ♀, b: 前腿節 (♀).



図 11 : *Bibio* sp. 2 a; ♀, b: 前腿節 (♀).



図 12 : クチナガトゲケバエ a; ♀, b: 前腿節 (♀).



図 13 : ヒメセアカケバエ 左♂, 右♀.



図 14 : ヒメセグロケバエ♂.



図 15 : クロトゲナシケバエ 左♂, 右♀.



図 16 : クロツヤニセケバエ♂.

総括

以上、上郡町からケバエ科の 2 属 10 種と 2 不明種、トゲナシケバエ科の 2 属 3 種、ならびにニセケバエ科の 1 種を記録した。そのうち、クチナガトゲケバエは兵庫県初記録になると思われる。

兵庫県ではこれら以外のケバエ類として、アシプトケバエ *Bibio grasilipalpus* Hardy and Takahashi, マツムラケバエ *Bibio matsumurai* Okada, クロアシプトケバエ *Bibio nigriclavipes* Hardy and Takahashi, チョボグチトゲケバエ *Dilophus brevirostrum* Hardy and Takahashi, ナガトミトゲナシケバエ *Plecia nagatomii* Hardy and Takahashi の 5 種が記録されている (Hardy and Takahashi, 1960)。

引用文献

Beuk, Paul. Key to European Scatopsidae, occasionally supplemented with some species from other regions. http://online-keys.net/infusions/keys/keys_view.php?key_no=23(参照 2025 年 2 月 3 日)

- Hardy, D. E. and Takahashi, M. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera; Nematocera). *Pacific Insects*, 2(4): 383-449.
- 春沢圭太郎, 2012. 近畿地方のトゲナシケバエ属の記録. はなあぶ. (33): 49-50.
- 中村剛之・三枝豊平・諏訪正明 編. 2014. 日本昆虫目録 第8巻 双翅目 第1部. 日本昆虫学会 発行, 権歌書房, 福岡. 539pp.
- 大貝秀雄, 2015. 与論島新記録のコクロカメムシおよびその他の昆虫. 月刊むし. (534): 52.
- 大貝秀雄. 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内1区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター, 上郡. 94pp.
- 三枝豊平, 1983. ナガサキニセケバエ. 石原保 監修 学研生物図鑑 昆虫 III バッタ・ハチ・セミ・トンボほか: 167, 308. 学習研究社, 東京.
- 東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト. 2016年8月29日更新. 東京都本土部昆虫目録. <http://tkm.na.coocan.jp/> (参照 2025年2月3日)
- Ueda, K., Sawada, Y., Yoshiyasu, Y. and Hirowatari, T. 2000. A list of Japanese insect collection by P. F. Von Siebold and H. Büger preserved in National Naturhistorisch Museum, Leiden, the Netherlands Introduction. *Bulletin of the Kitakyushu Museum of Natural History*, 19: 43-47.
- 吉田浩史・八木剛, 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目. きべりはむし. 34(2): 12-25.